

# SSKS 風の子便り

ひとりぼっちの障害者をなくそう



## 目次

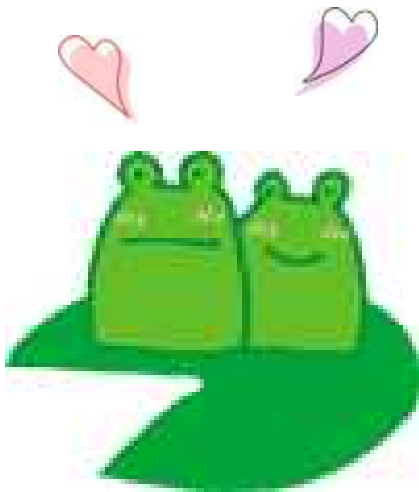
- ☆虫めがね1 . . . . . 2
- ☆虫めがね2 . . . . . 3
- ☆署名報告・活動報告 . . . . . 4
- ☆夏期営業のお知らせ . . . . . 5
- ☆小野塚連載 . . . . . 6
- ☆岡本連載 . . . . . 7
- ☆和栗連載・クイズ . . . . . 8
- ☆寄付のお礼・学習会報告 . . . . . 9
- ☆クラブ活動報告・  
スケジュール . . . . . 10
- ☆歌踊りボランティア募集  
夕会便り . . . . . 11
- ☆編集後記 . . . . . 12



先月、茨城県をはじめ多くの所で被害に遭わされた竜巻ですが、皆さんの住んでおられる町は、被害は大丈夫でしたか！？今月の中旬になり、北海道を除く日本列島は、梅雨の時期が始まります。ジメジメした季節となります。皆さんで乗り切りましょう！！

田中 聡

## 虫めがね～初恋～



虫めがね 初恋  
私は 恋をした 初恋だった  
中学の同級生だった  
小学校の頃は気にしていなかったが  
制服を着てるせいか綺麗というより  
可愛く見えた  
目の錯覚か  
そして告白できずに  
中学生生活は終わった

三木 直人



『恋』や『愛』・『好きになる』等の基準・定義が分かりませんが、その人と一緒に居るだけで楽しくなれたり話や馬が合ったり周りが見えないような状況になる女性はただ一人だけ居ました。彼女には勿論の事、結婚相手にするならこういう人のほうが良いみたいな感覚を持っていました。その人とはもう逢うこと（機会）がそう無いでしょうし、此の様な感覚を得られる女性は今後会えないでしょう。ずっと彼女が居ない身の僕としては、その時期だけ唯一恋愛感情みたいなものを持っていました。

田村 亮彦

# 虫めがね ～初恋～

私の初恋は十六歳の時でした。でも本当はその前に二人気になる人がいましたから、初恋とは言えないのかもしれませんが。初恋の人は私の家から三軒離れた家に働きに来ていた人で、北海道の人だと人づてに聞きました。外の仕事が多かったらしく、たまに家の前で仕事をしているのを見ると、嬉しかったものです。

わずか二年足らずの恋でしたが、その頃の私はCPの症状も重く滅多に外へ出ることもなく、日がな一日の大半を窓から外を見て過ごしていました。だから季節的に寒くなくなると、夕暮れの美しい空を見ながら、早くあの角を曲がって帰って来ないかと、胸をときめかせて待っていたのに、まだ十代の後半になったばかりの私は、コンプレックスの固まりで、とてもその人と真っ正面から、顔を合わす勇氣などなくて、自転車が角を曲がってきたことを確認すると、すぐに窓の陰に隠れてしまいました。表では二回ほど出会ったことがあるのですが、一回目は表で顔を合わせるようになってしまい…その時のあの思いはもう二度としたくはありません。

二回目は追い越されたただけなので意識は殆どしないですみましたが、後ろ姿を見ながら心の中で叫んでいました。ここへ来て私と一緒に歩いてほしいと。これが私の初恋の思い出です。

太田圭子



# 活動報告



四月に入り、新年度を迎えました。風の子会も新職員の石田さんと諏訪さんの二名入り、新たな気持ちで風の子一同精進していきたいと思しますので、一年間よろしくお願ひします。

田中 聡

## 署名報告

今年の障害者福祉についての新たな法制に関する請願書「きょうされん第35次国会請願署名・募金」は現在で、署名が115筆・募金65、400円頂きました。

本当に、沢山のご協力ありがとうございました。皆様の思いが込められた署名は、きょうされんで取りまとめで、代表団により国会に提出します。

また、いただいた募金は請願運動の資金やきょうされんの様々な活動のために、大切にに使わせていただきます。

署名用紙を実習所にご郵送された皆様、署名にご協力下さった皆様、募金を下さった皆様にこの場を借りて厚くお礼を申し上げます。ありがとうございました。

## 2012年 Tシャツ・タオル販売の お知らせ



私達風の子会は、きょうされん（旧称：共同作業所全国連絡会）に加盟している港区の障害を持つ人達が集まる共同作業所です。さて、今年も夏季販売の時期がやってまいりました。この「Tシャツ・タオル」の販売は、毎年行っているもので、とても好評です。今回きょうされんは、全国の作業所等で描かれたデザインがプリントされたTシャツやタオル、バッグを販売しております。障害者自立支援法による厳しい状況の中で、施設運営の維持や工賃アップは切実な問題となっています。この販売活動はきょうされんや作業所の活動資金、障害のある人達の収入を得る為の活動です。熱中症対策グッズや作業所応援Tシャツ・タオル、キャラクター等、取り揃えております。同封しましたパンフレットを是非ともご覧下さい。申込用紙も同封してあります。たくさんの方々にご愛用されることを心待ちにしております。



### 注文方法



※注文方法は以下の二通りあります。

- 風の子会高浜生活実習所へ電話又はFAXで注文。
- 風の子会高浜生活実習所へ注文用紙を持ってくる。

### 締め切り日

**第一次締め切り日 6月30日（土）**

**第二次締め切り日 7月20日（金）**

- \*・・・商品のお届けは、ご注文締め切り後、約10日前後とさせていただきます。
- \*・・・港区内は、配達致します。配達の際は、代金引換となります。
- \*・・・郵送の際は手数料ですが、同封する振り込み用紙にてお近くの郵便局にてお振り込み下さい。（手数料は無料です）。お買い上げ金額が5000円以下の際は、送料をご負担願います。

## わたるのドミトリーライフ

【ドミトリーとは英語の dormitory つまり寮という意味】

### 第45話 Disabled In The Dormitory

僕が生活していた寮には、僕以外にも何人かの障害者がいた。彼らは僕にとって先輩であり同輩であり、そして後輩だった。僕はそれまで、僕以外の障害者と接する機会はありませんでした。それまでの僕の周囲—小学校も中学校も高校も—はほとんどが健常者という環境だった。僕はそんな中で必死に（あるいはそれなりに楽しく）人間関係を構築していった。だからその頃の僕は、彼らとどう接すればいいのかわからなかったのだ。

そんな中で、僕が寮で知り合った何人かの障害者について語ってみる。

一人目は、ヒロノ先輩。僕が入寮した時すでに4年生で、しかも寮長でもあった。ヒロノ先輩は肢体不自由があったが、身の回りのことはすべて自分でできたし発声もやや不自由さはあるものの介助なく人とコミュニケーションできていた。彼は誰からも好かれる性格であり、時として見せる甘えたがりな部分も好感をもって受け入れられていた。当時の僕には4年生は雲の上の人であり、しかも寮長というトップでもあったのでどのように接していいかわからず、個人的に会話をした記憶もほとんどない。しいてあげれば「おまえはおとなしすぎる！

もっと積極的に前に出る！」と熱く説教されたことくらいだ。とにかく熱い人で、そして甘えたがりで、しかも女性に弱い。ヒロノ先輩とはそんな人だ。卒業後も何度か会う機会があったが、基本的な性格の部分はその頃と変わっていなかった。

同輩にイマイズミという盲人がいた。一つ上にシライという盲の先輩もいたのだが、同輩の方が何かと接する機会があったので、イマイズミについて少し語ってみる。彼は全く目が見えなかった。けれども白杖をついてスタスタと歩いていたり、日常生活を健常者と全く変わらずにこなしていた。視覚障害を持った人の苦悩というものは僕にはわからない。僕が僕なりに苦悩を抱えながら生きてきたように、彼も彼なりに苦悩を抱えて生きてはいたのだろう（それは障害者や健常者に限らず、生きていく上で必要なものでもある）。だがイマイズミという男はそういった部分をまるで見せずに、飄々と生き、普通に寮生と接していた。発声に不自由がある僕と目が見えないイマイズミでは、普通にコミュニケーションなどとれるはずもなく、だから彼と特別な思い出があるかといえば、ほとんどない。ただ「俺には世界はすべて黒色に見える」というシュールなジョークを平然と言い放つ、その印象だけは今でも強く残っている。

シノダという一つ下の後輩は、下半身に若干のマヒがあったがそれ以外は何の不自由もなく、元気に明るく振る舞う可愛いコだった。新歓期の飲み会などで何度か一緒に飲んだことがあり、その際にお互いの障害について少し語ったような記憶もある（もっとも僕がその頃気になっていたのはシノダと一緒にいたコの方だったが）。

ここまで書いてみて思ったのは、ヒロノ先輩にしてもイマイズミにしてもシノダにしても、当時の時点で既に僕よりもしっかり自立していたのではないかと、ということだ。学生たちが一つの場に集まって4年間という時間の中を共生する——寮という空間では、お互いに助け合うことも大事だが、それ以前に一人一人がきちんと自分自身で立つことができるという大前提がなければならない。それは、障害者だろうが健常者だろうが関わらずに課せられる前提だ。ヒロノ先輩もイマイズミもシノダも、そういう面ではしっかりと当たり前の寮生として、寮で生活していた。

振り返って、自分はいったいどうだったのだろうかと考えてみる。

「寮の中でのツカシって、どんな奴だったんだろう・・・？」

～ 第46話へつづく ～

## 風の子便り連載

### バリアフリーよもやま話

#### 第10回 「アメリカのリフトつきバスの話」

アメリカは1970年代から、公共交通を車いすでも楽に利用できるようにする取り組みが行なわれています。たとえば路線バスには車いす用リフトを装備することが法律で義務づけられています。全部ではなく、一番運行が多い時間帯のバスの半数につけること、というものらしいのですが、実際にはほとんどのバスにはリフトがついているそうです。でもただそれだけではないのです。

かなり前のことですが、日本の障害福祉に関わっているある人がアメリカへ行ったときにその話を聞いて、実際に乗ってみたそうです。確かにリフトがありました。ところが、それにはカバーがかかっている、どうも使われている様子が見られません。そこで、その人はバスの運転手に「あのリフトは使われていないようだけど、なぜ使わないのですか？」と聞いてみました。

バスの運転手はそっけなく「なんであんなもの使わなきゃいけないんですか？」と言ったそうです。

「ああ、やっぱりアメリカでも障害のある人への理解は進んでいないんだなあ……。」とその人は思いましたが、思い切ってさらに突っ込んで聞いてみました。

「なぜって、車いすの人はあれを使わないと乗れないじゃないですか。」

「ええ、車いすの人はよく乗ってきます。でもバス停にはいつも他の人がたくさんいて、車いすの人が来ると、頼まなくてもすぐ皆で持ち上げえてくれるから、あんな機械なんか要らないですね。バス停に他の人がいないときは、バスに乗っている他の客が降りて抱えてくれますよ。私があれを使うとしたら、バスの客もいないで、バス停に誰もいなくて、私一人で乗せなきゃならないときだけです。まあ、そういうときはないでしょうけどね。」



なるほど、さすがはアメリカ、とその人は感心したそうです。当時の日本はまだバリアフリーの考え方もあまり進んでおらず、車いすの人の外出も限られていました。今は日本でも周りの人がかなり手伝ってくれるようになりました。でもまだ向こうから声をかけてくれて助けてくれる、というのは少ないですね。私もアメリカで、通りすがりの人が車いすの人に気軽に「何か手伝いましょうか？」と話しかけるのを何回か見たことがあります。

車いすの人もとくに必要ないときには、あっさりと「サンキュー。大丈夫です。」と言い、相手も「じゃあ、またね。」というような具合です。アメリカはどこでも、いつでもそうだというわけではないでしょうが、全体としてはこういう風土が根付いているようです。

日本がこういう状況になるには、周りの人に理解してもらいたい、と願うだけではなく、車いすの人をもっと積極的に街に出て行くことが必要でしょう。街に障害のある人が歩いているのがごく自然で当たり前、そんな世の中が早く来るといいですね。

なお、日本でも以前はリフトつきバスがありました。最近ではほとんどがノンステップバスに変わっています。都営バスではリフト付きバスは使われていません。アメリカでも最近では低床バスが主流になってきているということです。

岡本 明



義兵が立ち止まると、  
「木村様、ここがホテル  
横浜と言う西洋の宿屋です。」

ホテルは木造三階建てで、  
部屋は大小合わせて十六有り、  
一階は、食堂、洗面所、トイレ、  
浴室があり、広い料理を作る調理場があり、  
中は煉瓦の大きな釜があり、細い煙突が屋根  
を突き抜いて立っている。（このパン焼き釜  
こそ、我が国で、最初のパン焼き釜  
第一号なのであった。）



栗あきら

## Ryo's エニグマルーム

問1, デジタル表示時計の時間表示で同じ数字が3つ以上並ぶのは、1日のうちで何分間（何回）あるだろうか。ただしこの時計は12時間表示式で正午、真夜中の12時は『12:00』と示すものとする

問2, 8個のまったく同じ形をした重りがある。そのなかに、1個だけ、やや軽い重りがあるという。天秤を2回だけ使って、その「軽い」という1個を見つけられるという。さあ、「軽い」物体を見つける方法とは？

問3, A君とBさんが農園に雇われて、花の種まきをした。10アールの畑を半分ずつ担当し、A君は東側から、Bさんは西側から仕事を始めた。A君は1アールあたり20分、Bさんは40分かかったが、種まきになるとBさんはA君の3倍のスピードでやりとげた。2人で100ドルの賃金を仕事量で分配すると、Bさんはいくらもらえるだろう？

問4, 20分後に沈んでしまう客船に15人の人が残されている。定員5人のボートを1隻つかって、近くの島に避難したい。あたりの海には人食いザメがいて、泳いで渡るのは不可能だ。客船から島までの往復に9分かかるとして、いったい何人が助かるだろうか。



# 寄付のお礼

賛助会にご賛同下さった方

福島照行様 佐知子様 渡辺三恵子様 滝口雅祥様 内田茂様  
管野利昭様 佐久間健様 久仁子様 庸様 右田麿子様 諏訪敏子様  
園部裕干様 田中紀義様 あけみ様 聡様 飯尾直美様 三木順子様  
小野田和子様 江尻公一様 吉水富美子様 橘康子様 田中マサ子様  
丸毛波津様 野島喜一郎様 堀信子様 近藤綾子様 柏原美千恵様  
伊藤隆夫様 羽鳥貞子様 鈴木謙一様 中山進様 山形和子様  
松秀寺様 諸角始子様 中井英代様 司城不二様 小林高史様  
新井ミヨ様 小西雅子様 松本トミ子様 黒澤フミ様 渡辺さよ子様  
森田浩様 湯川揚子様 金子豊様 仙頭邦子様 反町美佐子様  
小高安子様 波多野順治様 栄子様 立石哲子様 修様 吉本道子様  
原田洋子様 飯田キエ子様 大野誠様 木田節子様

ご協力ありがとうございました

# 学習会報告

4月4日、風の子のみんなで東京ゲートブリッジへ行きました。景色は最高でした。僕は岡本さんの運転する送迎車に乗りました。他は田中先輩、野田君、北原さん、飯尾さんでした。僕達は車の中で盛り上がりました。スーパー楽しかったです。みんなで東京ゲートブリッジを車でわたりました。みんなで飲み物を飲んで帰りました。

4月11日、風の子のみんなで桜を見に行きました。場所は東京ミッドタウンです。僕達は桜を見ました。そして、桜は少ししか咲いていませんでした。桜は4月14日に見ました。満開でした。

4月18日、風の子のみんなで字を書いたそうです。うまく行ったそうです。僕はその日は休みました。パソコンで用意した字を書いたそうです。

4月26日、風の子のみんなでイチゴ狩りに行きました。場所は神奈川県平塚市です。パーキングエリアで食事をしました。僕は大好きな人と一緒にイチゴを食べました。美味しかったです。

柳川敬事

# クラブ活動

4月21日土曜日。風の子会でクラブ活動がありました。

僕はコーラスクラブです。参加メンバーは野田君、右田さん、岸田先生です。

歌った歌は「ふるさと」、「大きな栗の木の下で」の2曲を合唱しました。大きな声で歌いました。気持ちよかったです。右田さんは嬉しい顔をしてました。野田君は楽器を叩いてました。僕はふるさとを一所懸命歌いました。

僕達コーラスクラブはこれからも懐かしい曲を歌い続けます。



また、田中先輩は運動クラブです。手と足の訓練をやったそうです。僕は田中先輩に話を聞きました。「気持ちよかったです。」田中先輩は満足な顔をしてました。松本先輩は仕事クラブです。楽しくパソコンを打ってました。小野田さんは小麦粉からうどんを作りました。うどんは出来上がりました。

柳川



## スケジュール

	5月12日	外に出よう全体集会
	5月16日	運営委員会
	5月20日	外に出よう本番
	5月27日	外に出よう予備日
	6月23日	総会
	7月7日	歌と踊りの集い

# 歌踊りボランティア大募集

今年も歌と踊りの季節がやってまいりました。今回風の子では、去年に引き続き演劇をやることとなりました。つきましてはお手伝いをして下さるボランティアを募集しています。



日程は7/7(土)の七夕です！基本的に水曜・土曜が練習日となります。

詳細は風の子会の方へお問い合わせ下さい。  
勿論、本番のみの参加でもOKです！

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

風の子会一同

## 夕会便り

4月7日の夕会で、「旅行」で行く場所を正式に決めました。前もって候補にあがっていたのは、「はくら（長野県）」と「浜名湖」でした。結局、多数決によって、ほぼ圧倒的に「浜名湖」に決まりました。

4月14日の夕会は、「歌と踊りの詩作り」の時間にあてられ、みんなで詩を書きました。

4月21日の夕会は、「クラブ活動」があったため、お休みでした。

4月28日の夕会は、「歌と踊りの集い」の演目について、みんなで話し合いました。ミュージカル、エグザイル、歌舞伎、パラダンス、ショートコント、演劇に候補が絞られ、結局、方向性として、「演劇」のようなものにすることに決まりました。

担当・ストーン・ゴッド

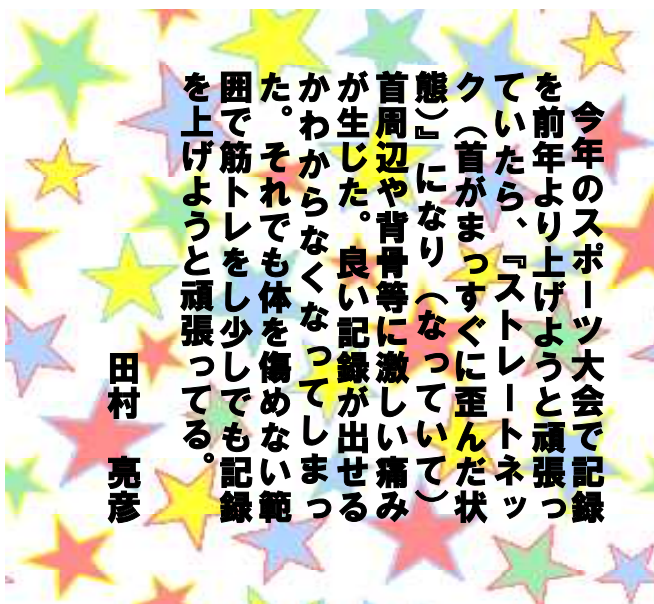


## ～☆クイズの解答☆～

A 1, 34 A 2, 最初に左右 3 個ずつのせるのがミソである。そこに気がつけば後は簡単。まず初めに左右 3 個ずつ天秤にかける(2 個余らせる)。釣り合った場合は、残りの 2 個を 1 個ずつ天秤にかければ、「軽い」物体がわかる。釣り合わなかった場合は、軽かった方の 3 個の中から 2 個を選び(1 個余らせる)、1 個ずつ天秤にかければ、「軽い」重りがわかる

A 3, 50 ドル (最初に「10 アールの畑を半分ずつ担当」というのだから、2 人の仕事量は同じである。100 ドルを仲良く山分けにすればよい。答えは 50 ドルだ。)

A 4, 13 人 (最初に 5 人がボートに乗って脱出します。島に着いたら、ボートに一人乗って帰ってきます(ボートは無人では動きません。島に 4 人いることとなります)。この時点で 9 分経っていて、もう一度 5 人がボートに乗って脱出します。再び島に着いたら、またボートに一人乗って帰ってきます(ボートは無人では動きません。島に 8 人いることとなります)。この時点で 18 分経っていて、最後に 5 人がボートに乗って脱出します。2 分後に船は沈没してしまい、現在ボートに乗っている 5 人とすでに島にいる 8 人の計 13 人は無事で、船に残された 2 人だけが助かりません。)



今年のスポーツ大会で記録を前年より上げようと頑張っていたら、『ストレートネット』（首がまっすぐに歪んだ状態）になり（なっていて）首周辺や背骨等に激しい痛みが生じた。良い記録が出せるかわからなくなってしまう。それでも体を傷めない範囲で筋トレを少ししても記録を上げようと頑張ってる。

田村 亮彦



# 編集後記

4月からNHKで夜12時より始まったニュース番組がおもしろい。視聴者の意見をツイッターで取り入れながら展開していくという、実にインタラクティブなニュース番組だ。僕はツイッターを活用していないので、ツイッターがどういうものかを知ることが出来て参考になった。けれども特筆すべきはツイッターよりも、この番組のキャスターがかなり好みのタイプだということだろう。

小野塚 航

僕は、この季節がいちばん好きです。何故かといえは、まず録音が、目にしみるほど濃いからです。それから食べ物も美味しくなる頃です。フルーツでは、いちご、グレープフルーツ、すいか、いちぢく、さまざまな果物が店先に並び頃ですが、僕はこの頃の果物の中で「さくらんぼ」が、いちばん好きです。うちの母が「つまらないところが親に似るものね、貴方のお父様がサクランボが大好物だったの。それに貴方も似ちゃったのよね」今年も店頭には少し高いがさくらんぼが並ぶ季節になり、僕の心は晴れやかなものでいっぱいです。

太田 稔

## ひとりぼっちの障害者をなくそう 特定非営利活動法人・風の子会 ～定価40円～

編集者  
石田神間 太田稔  
佐久間 亮彦  
田村久彦  
柳川木村 亮彦  
吉柳三田 亮彦

代表人 太田 稔  
小野塚 航  
田中野 塚  
松本 塚  
右田 塚  
幸田 塚  
和栗 塚  
高史 郎  
高史 郎

編集人：【高浜生活実習所】  
生活介護、就労継続支援B型

〒108-0075  
東京都港区港南1-1-27 カナルサイド高浜3階  
TEL 03(3474)9674 FAX 03(3474)9213

ブログ：<http://kazenokokai.blogspot.com>

発行人：障害者団体定期刊行物協会  
東京都世田谷区砦6-26-21

